



馬倫
場敦
某在
著留
日
英
文
際
論
一千八百七十六年於倫敦刊行

3886



114
A 717

目録 交際論

幕府 英國ト互市ノ結約ヲナシ兼テ外國ト交際ノ為ニ

長崎函館ノ二所ニ港口ヲ開キタルハ實ニ西曆一千八百

五十四年十月ノ一ナリ當時幕府ハ兩國トノ通商事務ヲ

管理スル一及ヒ本邦駐在ノ英人ヲ保管スル一ノ誓約ヲ

ナシ且為ニ多クノ許容ヲ與ヘタリ抑モ此許容ヤ我々安寧

ヲ保存スルノ上ニ妨害ヲ生セルノミナラス兩國ノ親睦及ヒ

獨立國タル自由平均ノ交際上ニ除去シ難キ所ノ障碍ヲ釀

セリ吾輩奈ソ措テ歎セサルヲ得ンヤ因テ今其性質ノ

何如ハ姑ク舍テ論セシテ先ツ此許容ノ影響ト幕府ニ於

テ之ヲ與ヘタル時ノ形勢トヲ畧説セントス

歐洲ニテハ近來迄日本ニ二帝アリテ一ハ軍事ヲ知トリ一ハ

宗教ヲ主トルト云ハル説行レ歐人一般深ク之ヲ信シ居タリ

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

大正十一年四月

サレハコソ彼一千八百六十八年。我復古ノ役ノ起ルニ方テヤ駐在
ノ歐人ハ我政府ノ正潤ヲ分別スルニ能ハサリシ者多カリシト斯
ル情况ナルカ故ニ幕府既ニ亡テ閩國全ク王政ニ復歸セシカトモ
猶ホ幕府ノ再興セシテ望ミタリシナレ然ルニ復古以來僅ニ
數年ニシテ皆始テ幕府ハ正統ノ天子ニアラス使テ天子ノ臣
下ニシテ其祖ハ纔ニ陸軍ノ一將タリシカ後漸ク權勢ヲ得終
ニ真政府ヲ敬シ遠サケ以テ別ニ霸朝ヲ立テ天子ニ代ラ國
家ヲ制御ヤシモノナリト云フヲ知リタリ故ニ今更ニ幕府ノ起端
ヲ談スルヲ要ヤスト雖モ先ツ復古ノ事及ヒ幕府ノ許容ヲ與
ハタル時ノ形勢ヲ言ハシカ為ニ姑ク溯テ其始末ヲ説カントス
夫レ徳川家康ハ初メ區々タル一州ヨリ興リタルカ稍ク威惠
行ハルニ随ヒ益々力ヲ盡シテ人心ヲ斂メ愈々精ヲ勵ミテ治
術ヲ求メ終ニ大ニ天下ヲ戡テ六朝廷ヲ崇奉シテ向

背ヲ知ラシメ下ハ衆庶ヲ撫育シテ徳澤ニ霑ハシメケル程
ニ全國仰慕シテ宗トセサルモノナキニ至レリ是ニ於テ
ヤ賞罰ノ權ヲ掌握シテ霸府ヲ閩左ニ開キ遂ニ能ク二百
餘年昇平ノ基礎ヲ定メタリ吾輩今日ニ在テ猶其恩惠ヲ
謝スルハ是レ家康ノ功ノ致ス所ト雖モ斯ル政府ノ立ツハ畢
竟時勢ノ止ムヲ得サルヨリ成立シタルモノナリ然ルニ太平
ノ久キ政道漸ク弛廢シ人俗隨テ萎靡シ初ニハ仁政ト稱ヤ
シモ終ニハ苛政ト呼フニ至レリ且國民素樸ニシテ未タ開
化ノ美ナルヲ知ラサリシカ故ニ人民保護ノ為ニ設ケタル
方策ニ後ニハ却テ之カ妨害トナリテ國家開明ノ進歩ヲ退
却セシメタルヲ鮮カラサルナリ抑モ幕府ノ政ヲ施クヤ專ラ
封建ノ治法ヲ行ヒ全國ヲ分割シテ諸侯ニ領ヤシメ而シテ諸
侯ノ中ニ就テ徳川氏ノ一族ヲノミ選舉シテ之ニ國政ヲ委

任シケル故他ノ諸侯ハ國政ニ與カルコトヲ得サルヲ以テ曾ツ
政府ノ處置ノ何如ヲ知ラザリシナリ斯リシ程ニ幕府ノ未
世ニ及テハ益々諸侯ト踈隔スルノ策ヲ構ヘ中央集權ヲ改
策ノ上ナルモノトナシ之ヲ以テ國安ヲ保タシテ謀リタレ
凡人民ハ帝ニ死シ顧ミス守株若憲シラ己カ位置ヲ持タン
コトヲ欲シテ政府ノ顛覆ヲ謀ルコト歎ナリキ此事ヲ載テ我青
史ニアリ儲強藩モ徳川氏ノ擅横ヲ觀テ帝ニ竊ニ愠リテ含
メリ夫レ天下ノ形勢己ニ此ノ如クナルカ故ニ徳川氏ハ勢ヒ
吾カ好ミスル所ノ中央集權ノ策ヲ構ヘサルヲ得サルナリ是
ヲ以テ其深ク信任スル所ノ學士及官吏ヲ選抜シ以テ政
務ニ參與セシメ集權ノ治術ヲ盡シテ因循日ヲ送リナカラニ
專ラ幕府ノ為ニ利益アラシメテ謀リケル程ニ先ツ
幕府ノ身構ハ整備シ人民モ暫シハ服従シタリケレド強

藩ハ敢テ服セズ政府モ擅ニ威權ハ用フルト雖モ人心ヲ斂
ムルコトハ能ハザリシナリ中ニモ一千八百零四年ノ頃ニ政府
ニ向テ現ハシ其事ハ言ハサレド隱然不平ノ形ヲ顯ハシテ誹
譏シタル多カリシナリ升ハ何ソト言フニ當時有名ナル作者
ノ著ニ往々見エタリ馬琴種彦ノ輩ハ固ヨリ戯作者ナレド
種彦ノ田舎源氏ハ事ヲ他ニ藉リテ以テ暗ニ幕府ノ宮中ノ
撰採ヲ示シ密事ヲ記シテ其奢侈ヲ誹リタルモノナリ又馬
琴ノ戯著ノ多キ中ニモ優レテ寓意アルハ夢想兵衛ナリ此
書ハ人夢ニ諸國ヲ游歴シ到ル所ノ國政ヲ記シ以テ當時ノ
風俗ヲ諷誹シタルモノナリ夫レ復古ノ役ニ先ツ數十年前
ニ於テ人心ノ己ニ解體シタル知ルヘキナリ蓋シ是レ日本
人民ノ離心ノ形ハピタル一ニシテ便テ豫メ戊辰ノ結果ヲ
示シタルモノナリナイハニカ將タ今我邦ノ著述家中尤モ

聲價アル福澤氏著ハシタル文明論之概畧ニ委曲山事
情ヲ説カレ其不平ヲ顯シタルハ戊辰ノ役ノ一大理由ノ一
ナリト云ヒタリ此言ヤ實ニ之カ肯綮ヲ得タリト謂フヘシ
是ニ由ラ之ヲ觀レハ苟モ日本人民タルモノニシテ徳川氏
ノ如キ不條理ノ政ニ服シテ満足スルヲ得ニヤ且夫レ戊辰
ノ役起ルノ徴ハ歐人ノ未タ来ラサル前既ニ顯ハレタルモ
ノナレハ何ヲ以ラウ日本政體ノ變革ハ他國ニ比スレハ起
ルモ速ニ治ルモ亦速ナルヤノ問ハ歎ニヲ費サスシテ知ル
ヲ得ヘキノミ斯クテ累年ノ鬱排漸ク磅礫シテ人民皆ナ
新政府ノ興ヲ以テ此倒懸ヲ解カニテ願フ一宛モ大旱ノ
雲霓ヲ望ムカ如クニハナリタリ便チ是レ新政府ノ興ラサル
ヲ得サル所以ナリ且當時言路壅塞シテ人民皆自國ノ政
策スラ知ルヲ得ス而ルヲ况ヤ外國ノ事情ニ於テヤ斯ル景

況ナルカ故ニ交際上ニ議論淋騰スト雖モ恬トシテ念トセ
サルカ如ナルモ亦宜ヘナラマヤ又諸侯ニハ將來外國交際
ノ計策ヲ建議シタル者モナキニハアラサレハ政ニ參與ス
ルノ權ナキヲ以テ其事ノ竟ニ容レラレス然ルニ當時ノ施
政家ハ與奪ノ權ヲ握リ家康ノ設ク置キタル方法ニ據
テ唯屬官トシテ國事ヲ議スル事ニ慣レタルカ故ニ英人
トノ交際上ニハ殆ト為サン所ヲ知ラス然ルニ英人ノ狡黠
ナル巧ニ權術ヲ運テシテ我為ス所ニ應セリ今夫レ英ノ富
強ヲ以テ我貧弱ト較スルニ其利益ノ相逼ハサル一ハ三尺
ノ童見ス亦能ク知ルヘキナリ此形勢ニ由テ推考スルトキハ
實ニ幕府彼ノ脅迫スル所トナリテ多クノ許容ヲ與ヘタ
ルカ為ニ我獨立ノ國體ヲ汚シ吾輩カ聲ヲ發テ現今兩國
ノ交際上ニ苦情ヲ唱フルノ根源ヲ生セシハ言ヲ放タスシ

ラ明カナリ然ルニ日本駐在ノ英人ニハ此苦情ヲ以テ條理ニ適ヘリトスルモノ甚タ鮮シ故ニ余ハ此許容ノ性質ト其苦情ノ起ルヘキ淵源トヲ記シ以テ英國居住ノ英人ニテ常ニ正理ヲ執リテ善良ノ處置ヲ受スルニ著名ナル諸君ノ高説ヲ仰カントス

夫レ許容中最モ痛歎ニ堪サル所ノモノハ一千八百五十八年八月江戸ニ於テ日英ノ間ニ結約シタル條目ノ第五條ニ對シテ犯罪アル英人ハ英國領事其他交際ニ關スル英國官吏ニテ之ヲ糾問シ英法ヲ以テ罪科ニ處スヘシト第五條ニ曰ク凡ソ日本人ニ負債アル英人之ヲ償却スルニ急リ又ハ不正ノ策畧ヲ以テ之ヲ避ケントスル等ノ所為アルトキハ英國官吏其裁斷シテ之ヲ償却セシムヘシト其レ此條

目ハ日本人民ノ身ニ至大ノ損害ヲ来ス源由タリ何トナレハ凡ソ我領内ニ外國人ヲ寄留セシムルトキハ其寄留人ヲ管轄スルノ權理ハ獨立國ノ固有タルハ勿論ナルニ奈セニ日本政府ハ己ニ外國ノ為ニ之ヲ剝奪セラレタルカ故ニ歐人カ如何ナル擧ヲ為ストモ之ヲ制馭スルノ權ナケレハナリサハ我邦ニ來ル歐人ハ皆日本國ヲ目シテ獨立國ニ似タル一種ノ國ト認メ爾レ國法ヲ犯スヲ恐レス抑ハ犯罪ヲ懲罰スルハ政府ノ義務ナリト雖モ己ニ政府ヲ恐レサルカ故ニ國法ヲモ亦蔑視シテ守ラサルナリ聞ク近日ノ事トカヨ日本在留ノ一英人ニテ甚シキ罪ヲ犯シタルモノアリト開ハ何事トト言フニ年甫ノテ十三年ノ小女ヲ強姦シテ其體ニ傷ク其名ヲ汚サシメ以テ彼カ生涯ノ榮譽ヲ壞リ終身人ノ指笑スル所トナリタルカ如キ慘酷憐ハヘキノ暴擧ヲ為シタ

リシカトモ英領事此破廉耻甚シキ大罪人ヲ罰スルニ
僅ニ六ヶ月ノ禁錮ヲ以テセリトナシ我輩此事ヲ聞ク毎
ニホタ嘗テ扼腕シテ而ノ慨歎マスニハアラサルナリ夫レ
此事ヤ條約ノ如ク我人ヨリ英國領事ニ訴フルハ勿論ナ
リト雖モ此領事タルモノハ固ヨリ日本在留ノ英國人民中
ヨリ擧クルモノナレハ争テカ己カ國人ノ耻辱ヲ公ニシ以
テ之ヲ罰スルヲ快トセニヤ必ラス擁護シテ其事ヲ陰蔽
スルノ心アルヤ疑ナシ至若日本在留ノ英人ハ我カ為ニ辱
庇ヲ蒙ルル多シト雖モ却テ我人及ヒ政府ニ向テ偏頗
ノ心ヲ抱クノ弊アリ是等ノ事情ヲ以テ觀ルモ英國領事
ノ裁判ノ正シカラサルヲ知ルニ足レリ斯ル不正ノ裁判ヲ
為ス所ノ審庭ニ於テハ將來如何ナル断決ヲ為スヤモ測
ルヘカラサルナリ因ラ意ヲ領事ノ管轄上ニ注テ熟考シタ

ルニ便ニ爲ヨリ甚タシキモノアリタリ开ハ「ジヤッパンガゼット」
横文新聞紙ニ領事ノ裁判ノ不満足ナルヲ擧ケ日本寄留
ノ歐洲人之カ為ニ頗ル困難ヲ蒙ルルヲ明カニ掲ケタリ
其文ニ曰ク寄留人民ハ彼カ裁判ノ不正ト施政ノ不公平ト
保護ノ鄭重ナラサルトノ為ニ慨歎スルヲ多シ蓋シ其為ス
所ハ宛モ童蒙ノ大人ヲ凌辱スルカ如ク其説ク所昔日愚者
ノ説キタル謬論ノ如ク其裁判スル所ハ常ニ狭小區ニ満
足スルモノ、如ク且獨リ此ノ如キ為ニ困難ヲ蒙ルルノミナラス
其吝嗇ノ為ニ損害ヲ被ムルヲ多シ又英蘇二國ノ人民カ被
ムル所ノ一大困難トイフハ即チ英國ヨリ外國へ駐在セシメタ
ル諸官吏ノ管轄上ニ施ス所ノ嚴酷ナル處置是ナリ此ニ因
テ人民ト官吏トノ間和睦ヤス為ニ支梧ヲ生スルヲ少カラス
其レ此弊ノ由ラ生ズル所ハ官民ノ間ニ入テ問フヲ待タ

スシテ明カナリ凡ク外國駐在ノ諸官吏ニ此弊ヲ免レタル
モノハ殆ト稀ナリ領事ノ裁判ノ偏頗ナルトハ日本ノ法律
ニ遵フコトヲ否ム所ノ歐人スラ猶且此ノ如キ不満心アリ而
ルヲ况ニヤ吾輩ニ於テシヤ然レドモ吾輩ハ竟ニ至當ノ裁判
ヲ受クルコト能ハサルナルヘシ然リナカラ英人ニハ間、或ハ此
ノ如キ官吏アルカ為ニ却テ益ヲ蒙ルコトナシトセス何ト
ナレハ己カ國人ヲ擁護スルトキハ他日之カ為ニ利益ヲ得ルコ
トアルヲ以テナリ且吾輩カ英人ニ對シテ訴訟スルトキハ英人ノ
為ニハ直接ノ利益ナキヲ以テ先ツ自國ノ人ヲ陰蔽スルハ
理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ將彼レ吾輩ニ對シテ獨リ偏頗ノ心
ヲ抱ケルコトナラス我宗教風俗モ亦其耳目ニ熟ヤサルヲ以テ
痛ク之ヲ擯斥ヤリ抑モ彼レ其自國ノ人ニ對シテスラ適
當ノ裁判ヲ為サスシテ不満ノ心ヲ抱カシム然ルヲ何ヲ以

テカ日本人ニシテ満足ナルヲ得ニヤ夫レ是等ノ情况ハ苟
モ道理ヲ有ヤル人ニハ必ス正理トハ見エサルナルヘシ此ニ
由テ之ヲ觀ルハ兩國人民ノ間ニ爭論起リテ判決スル時
ニ方テ最モ困難ヲ被ムル者ハ獨リ日本人ノミナルヲ知ル
然レハ此管轄法ノ行ハル、間ハ日本人ハ決シテ至當ノ
裁判ヲ受クルコト能ハサルヘシ己ニ上ニモ説ケル如ク吾輩
人民ヨリ英人ニ對シタル訴訟ハ英法ニ遵テ百事英領事ノ
審庭ニ訴フルノ定メナルカ故ニ此訴訟ヲ為ス者ハ應ニ
英ノ法律ヲ知ラサルヘカヲサレ答テ此法律ハ英人スラ
容易ニハ解シ得サル程理術ニ関シタル深長ノ意味アル
ヲ以テ少シク之ヲ學ビタルモノハ其難キヲ知ルヘシ「ベニガ
」氏カ立法說ニ英ノ依例律ノ曲折シタルコトヲ載セラレ曰ク
依例律ハ甚タ區別多クシテ全律ヲ畫一スヘキ所ノ決議

ニスラ疑心ヲ抱クモノ多キノミナラス較知覺ヲ備ヘタル者ト雖モ僅ニ其道理ノ一端ヲサヘ發見スルノ能ハス其解スルノ難キト恰モ意味玄奥ナル學術ノ如ク實ニ難解ノ學術ニシテ全ク成業スルモノハ多クハ有ラサルヘシ何トナレハ未タ嘗テ全部ヲ了解シタリト云フ法律師アルヲ聞カス凡ソ此ノ如キ學術ハ之ヲ適宜ニ分割シテ學ヒ易カラシムルヲ善トス抑々法律ノ斯ク困難ナルハ畢竟固陋ヲ脱却セサルモノ、迷誤ヨリ生シタルモノナリト夫レ我輩人民ハ數年来老實素樸ナル風俗ニ因テ設ケタル所ノ法則ニ習慣シテ英國ノ如キ難解ノ規律ニハ夢ニタモ相會セシトナカリケルカ目今ノ形勢ニテハ斯ク難解ノ法律ヲ了解シテ其把握スヘカラサル道理ヲ信シテ凡百ノ裁判ヲ仰カサルヲ得サルナリ將タ尋常ノ才能アル人ニテハ直テ領

事ニ請フ者ハ稀ナルヘシ是故ニ常ニ其裁判ニ失望ノ事アルノミナラス法律ノ解シ難キヨリシテ我ニ正理アリト雖モ竟ニ至當ノ裁判ヲ受クルヲ得ス却テ過分ノ入費ヲ償フコトアラニテ恐ル、ナリ斯ル景況ナルカ故ニ英國領事ト日本訴訟者トノ間ニ頗ル宜シカラサル情實ノアルヤ明カナリ斯ク英法ノ錯雜シテ確實ナラサルヨリ歐洲高人ト通高スル所ノ我人ハ更ニ甚シキ心痛ヲ抱ケリ其故ハ我人ハ歐洲人トノ通高ニ関シテ如何ナル成規アリテ其安全ヲ得ルヤ將テ如何ナル保護ヲ蒙ルヤヲ知ラスシテ夫ノ自國ノ高法律ニ明カナル英高人ノ為ニ恣ニ凌辱セラレテ大損害ヲ被ルモノ少カラサレハナリ又英法ノ斯ク難解ナルヲモ知ラスシテ漫ロニ大射ヲ射シテ終ニ蹉躓シテ始メテ事ノ辛古ナルヲ知ルニ至ルト往々アリ此ニ

由ラ之ヲ觀ルニ我商人ハ英商トノ通商ニ取テハ不利ノ最
モ甚シキ位置ヲ占メタル一ハ言ヲ竣タスシテ知ルヲ得ヘ
ク且斯ク藩屬地ヲ處分スルカ如キ不條理ノ存スルアル
ハ我日本國通商ノ進步ヲ抑留スルヤ疑ナシ然ルニ若シ
日本在留ノ英人ヲシテ我日本ノ法律ニ遵ハシメテ其曲直
ヲ我ニ許ヘシメントスル片ハ彼レ必ラス我カ彼ニ向テ唱
フル所ノ如キ論ヲ吐クナルヘシ抑、法律ハ萬國各、其國
ノ性質ニ随テ止ムヲ得サル一アリテ設クルモノナレハ我
法律ノ英ト異ナルハ豈恠ニ足ニヤ故ニ英人ヲシテ我國法
律ヲ踏マシムル片ハ又不便ナキ一能ハス夫レ物右ニ合ス
レハ左ニ離ル、ハ勢ニ然ルモノニシテ彼ニ害アレハ我ニ
利アルハ亦若何ハスヘカラサルナリ然レハ其國ニ來レハ其
國ノ法ニ從ハサルヲ得サル答ノモノナレハ我日本ニ來テ

日本領内ヲ歩ム英人ハ必ス我國法ニ遵ハサルヲ得サルナリ
何トナレハ我日本帝國ニ寄寓スル英人我日本人民ニ對シ
テ犯罪アルトキハ我審庭ニテ之ヲ糾問シ我法律ヲ以テ之
ヲ罰スル一能ハスト云フ道理アルヲ未タ聞カサレハナリ
試ニ思ヘ凡ソ民事刑事ヲ問ハス總テ其領内ヲ管轄スル
ハ獨立國ノ主權ナルヘシ又英人ノ日本ニ來ルハ強牽セラ
レタルモノニアラス已レニ利スル所アリテ自ラ好ニテ來
リシモノナルヤ必ヤリ夫レ獨立國ニ來リテ為ニ得ル所アリ
シカ故ニ其酬報ヲナスヲ理ニ適ハストヤ又其國勢自
國ト同シカラサル國ニ來リタル片ハ其法モ亦異ナルカ故ニ
其到ル處ノ國法ニ循フヲ道理ニ適ハサルモノトスルカ夫
レ斯ク歟、シ貴スモ畢竟ハ我國ノ法律ニ循テ利益アル望
易シ為ヤト言フニ過キサレハ英人ニ取リテハ頗ル便利ナル

一ナルヘシト信ス。然レ我國ニ来リタルカ為ニ却テ不便利
多キヲ以テ假令モ得ル所アリトモ之ニ報ユルハ徒勞ニ属
ストナサハ何ゾ敢テ自ラ遠ク萬里ノ波濤ヲ超エテ来ラン
ヤ吾輩モ亦其来ル所好マサルモノヲ強テ速クソシナ
サシヤ將夫レ何レノ國ト雖モ英高シテ不利ノ高業ヲ為
サシメシヤト歎スルモノハアラス加テ他ノ諸國ノ吾輩人民ニ
對シ訴訟アルモノハ皆我法律ニ循テ我審庭ニ訴ヘテ其理
非ノ裁決ヲ請フニアラスヤ是等ヲ以テ推シラモ獨リ日本
在留ノ英人ノ我法律ニ循フヲ肯ヤサルノ理アラニヤ好
シ果シテ我法律ニ循フトモ必ラス不利ノ位置ニ居ラサル
ヲ得スト云フニアラニヤ

吾輩ハ彼ノ請フ所ヲ聴テ多クノ許容ヲ與ヘタルカ為ニ
大ニ困難ヲ来シ損害ヲ被リ永ク苦情ヲ鳴スノ病根ヲ

醸セリ然ルニ彼未タ飽クヲ知ラス尚ホ足ラサル所ヲ許
フルカ如シ然ルニ目今英人寄留地外日本里法ニテ十里
四方ハ我管轄ヲ受ケスシテ旅行スル所ハ自由タリ其唯許
ハ載ヤラ一千八百五十八年八月江戸ニ於テ誓約シタル條
目ノ第三條ニアリ其文ニ曰ク日本開港場ニ於テ英人ハ左
ノ限界中ヲ旅行スル所自由タルヘシ云々ト然ルニ英人
ハ尚ホ類ニ我政府ニ迫テ我法則ニ藉ラスシテ内地ヲ旅行
セシメテ請フ若シ我政府一旦之ヲ聴ス以上ハ犯罪者アル
毎ニ横濱若クハ長崎ノ領事館ニ送致セサルヲ得ル
ナルヘシ然リ而シテ彼レノ請フ所甚ク急ニシテ我寸地ヲ聴
ルス中ハ彼レ又尺地ヲ要スト云フカ如ク其請タル殆ト底
止スル所ヲ知ラサルニ似タリ是所謂谿谷ノ欲ヲ恣ニスト
云フモノナラニカ昔時「ウエリシ」ノ小説ニ英人ノ飽クソ

知ラサルモノ三種ヲ舉ラ謂ラ曰ク英人ノ貪婪ハ豺狼ノ如ク又饕餮人ノ如ク強慾人ノ如シト此三語以モ日本在留英人ノ性質ヲ知ルニ足レリ既ニ夫ノ許容ニ由ラ生スル所ノ重大ナル弊害ヲ来セシメテ知ラハ断乎トシテ其請ヲ聽ルスヘカラス凡リ世界ニ榮譽ヲ博クセニト欲スルノ國ハ日本在留ノ英人カ請フ所ノ如キ許容ニ與ヘサルヤ明カナリ然ルニ日本人民ハ英國新聞ニテ猶其請ヲ聽サル一ヲ批難セラル一數ナリ就中歐洲ニ游學スル所ノ日本人ハ面タリ甚タ難ヤラルト云是レ吾輩ハ日本ノ管轄ヲ離レテ来ル者ハ歐洲人ト他洲人トヲ問ハス盡ク之ニ拒抗スルノ氣力アルヲ以テ一千八百七十五年十月廿三日「サチユルデーレビユウ」ニ左ノ説ヲ載セタリ目今日本政府ヨリハ學生ヲ外國ニ游ハシメラ各國ノ自由政畧ニ藉テ大ニ利益

ヲ得ニ一ヲ欲スレモ自國ニ游フ所ノ外國人ニハ敢テ同等ノ自由ヲ與ヘン一ヲ欲セス且外國人ノ内地旅行ニハ益ニ難題ヲ以テ之ヲ止メントセリ又青年輩ハ多ク開化ノ資本ヲ歐洲ニ受タル一ヲ以テ歐洲ニ駐在ノ間ハ歐人ニ對シテ頗ル恭敬懇親ヲ盡スト雖モ其本國ニ歸リ故人ニ接スルヤ忽々舊ニ復シテ不良ノ品行トナルト此説ヤ彼レ兩國交際ノ事情ニ暗キヨリ出タル臆説ナルカ故ニ却テ自ラ其矇昧ヲ顯ハス足レリ且吾輩カ歐洲ニ游學シテ受クル所ト等シキ自由ヲ外人ニ與ヘサルヲ以テ批難スルハ畢竟我真意ヲ解セサレハナリ凡リ歐洲廣シトイフト雖モ日本政府ヨリ在留歐人ニ與ヘタルト同シキ自由ヲ與フル國アルヲ未タ聞カス試ニ觀ヨ英國政府ハ吾輩ニ許スニ民事刑事事ヲ問ハス全ク英國ノ管轄ヲ離レテ我法律ニ循フ

カ英倫敦ニ在ル我公使館ヨリ英里數二十里ヲ限リテ内地
旅行ヲ許サンカ將タ通商上ニ就テ已ニ吾輩カ英人ニ與ヘ
タルト等キ自由ヲ我ニ許サンカ又倫敦在留ノ日本領事ノ
審庭ニ於テ我法律ニ循テ訴訟ヲ為スヲ満足スルカ凡ソ
此許容ヲ英國在留ノ日本人ニ與ヘサルハ吾輩信シテ疑
ハサルナリ夫レ吾輩ハ斯ク彼ニ抑壓セラレハ間ハ誓テ彼
ノ需用ニ應スルヲナスマシ抑、吾輩ハ歐洲ニテ受クル
自由ヨリ遙ニ越エタル所ノ自由ヲ業已ニ彼ニ與ヘタリ故
ニ日本在留ノ英人并ニ他ノ歐人ニ等キ自由ヲ與ヘサルヲ
以テ吾輩ヲ難スルハ理ニ叶ハサルノ説ト謂フヘシ已ニ前
ニモ説キタル如ク條約上ニ許ス所ノミニテ猶ホ嫌ヲラス
強テ内地旅行ノ事ヲ請フ彼レ已ニ此ノ如クナレハ吾輩ノ
之ニ抵抗論難スルハ亦怪ムニ足ラサルナルヘシ中ニモ歐

人ニ與ヘタル許容ヨリ生スル所ノ至大ノ弊害及ニ其影響
ヲ知リタル者ト身歐洲ニ在留シテ歐人ノ我ニ與フル所ノ
許容ノ我カ彼ニ與ヘタル許容ト等シカラサルヲ知リ
タル者トハ殊更ニ斯ク藩屬地ト同キ待遇ヲ拒マズニハ
アルヘカラス余ハ今英國ニ游學スル一介ノ書生ナリト雖
モ斯ク獨立ノ國體ニ相ヒ當ラサルノ待遇ニ抗セントスル
有志ノ人ニハ遙ニ相共ニ約シテ愈々以テ之ニ抵抗セン
トス然レ氏日本内地ニ来リ吾輩カ歐洲ニ在テ旅行ヲ許
サレタルト等シキ約ヲ踏ム者ハ歐洲人ト他國人トヲ問ハ
ス敢テ之ニ抵抗セサル尚詳カニ此意ヲ説カニニ彼レ若シ
我法律ニ循ヒ我管轄ヲ受ケテ日本帝國ノ内地ヲ旅行セ
ント欲スル者アレバ我レ好テ之ヲ許スヘシト云フナリ然
ルニ我法律ト管轄トニ藉ラスシテ内地旅行ノヲ請フ吾

華何ヲ以テカ之ヲ拒マサルヲ得ニヤ且我獨立國ニ相ヒ
當ル所ノ待遇ヲ致スニアラサレハ吾輩ノ抵抗心ハ假令ヒ
加ハルトモ減セサルナシ之ヲ要スルニ吾輩ノ抵抗心ハ
彼ヨリ起サシメタルモノナレハ互ニ自由ノ交親ヲ妨クル
ハ烏ソ我罪ナリトセニヤ彼レ更ク身躬カラシ難ヤスニ
ハアルヘカラスサレハ吾輩ヲ初メ日本ノタルモノ皆協
力同心シテ獨立國タルノ地位ヲ保タント欲スルハ是レ至
當ノ理ニシテ孰レカ之ヲ不正ナリトイハンヤ且彼ノ欲ス
ル所ノ事ハ皆我獨立國ノ榮譽ト安寧トヲ害スルモノナル
カ故ニ吾輩之ニ抗スルハ即ケ天ノ然ラシムル所トイハン
ノミ抑、此許容ヨリ生シタル大害ハ獨リ我國ノ利益ヲ損
シ我民ヲシテ抵抗心ヲ生セシムルノミナラス終ニ英人ヲ
シテ豺狼ノ貪ヲ縱ニシ谿谷ノ欲ヲ逞ウセシメラ日本帝

國ニ屬スル所ノ日本人民ニ課收スル租税スラ彼カ協議ヲ
受ケサルヲ得サルトハナレリ

一千八百五十八年八月廿六日江戸ニ於テ締約シタル左ノ
條目ヲ觀ヨ

譯者曰ク兩國條約書ノ全一條ヲ掲ケルモノハ其意
義ノ適切ナランカ為ニ便チ締盟各國條約類纂ノ文ヲ
抄録ス

第十四條

貌利太尼亞人開きたる各港に諸物品ノ輸入ノ賣拂又
は買入れ輸出スル事自由なるヘシ
制禁外ノ品物規定ノ運上納濟の上は其他の運上を排
ふ事ナシ
軍用ノ諸物日本役所の外へ賣へからず
尤外國人互ノ取引は差構ある事ナシ

警方の國人品物を賣買する事総て障なく其拂方等に就ては日本役人之に立會はず諸日本人は貌利太尼亞人より得たる品を賣買し或は所持する事俱に妨かし

之ニ加フルニ一千八百六十二年倫敦ニテ結ヘル條約ニ日本大君及宰相ハ右第十四條ニ基キ凡テ輸出品ノ價格ト負數ニ関シ障礙トナルヘキモノアレハ務ラ之ヲ除クヘシトイフコトアリ

第十六條

輸入の荷物定例の運上拂濟の上は日本より國中に輸送する共別に運上を取立る事不し

第二十條

此條約に添たる高法の別冊は本書同様雙方の臣民互

に遵守すへし

日本貴官又は委任の役人と日本に来れる貌利太尼亞國の「ゴプロマチーキアゲント」と此條約の規則並別冊の條を全備せしむる為の規律等談判を遂くへし
右ノ文面ニテハ實地ノ經驗ナキ者條約事務ニ熟ヤサル者等ノ眼ニハ斯ク追大害ノアルトハ見エサルヘシ何トナレハ凡テ條約文ハ巧ニ言ヲ舞ハシラ嫌疑ヲ避ケタルモノナレハナリ然レ余ヲ以テ之ヲ觀ルルハ何程巧ニ言ヲ舞ハスト雖モ終ニ却テ徒勞ニ属スヘク且實地ニ之ヲ扱フ者ハ右ニケ條ノ意ヲ推考スルルハ更ニ思考ヲ費ヤスシテ他ノ件ニシテモ理解スルヲ得ヘク且歐人ノ常ニ我日本政府ノ内事冒サントシテ欲シテ其機會ヲ觀フコトノ撓マサル知ルヲ得ヘシ乃チ其ニケ條中第十四條ノ文ヲ見レハ英人

ハ日本官吏ノ立會ナク自由ニ諸高貨ヲ輸出入スルヲ得ラル、ナリ英人ノ狡黠ナル古自由ノ輸出入ノ意ヲ他ノ條目ニ於テ暗ニ強メタリ即自餘ノ條目ニ日本政府ハ諸輸出品ノ價直ト物質トニ妨害トナルヘキノ事ハ務メテ之ヲ除却スヘシト漫然妨害トナルヘキトノミ記シテ故ラニ妨害トナルヘキノ、性質ヲ説カス斯ク説フ片ハ其字ノ交渉甚タ廣クシテ如何ナルモノヲ指スヤヲ知ルヘカラス又第十六條ヲ見レハ輸入品ニ課スルノ税ハ條目ニ記シタルモノ、外ハ日本帝國何レノ地ニ運搬ナストモ別段ニ税ヲ課スルヲ許サ、ルナリ又第二十條ヲ見レハ彼レカ為ニ物價ノ貴賤ニ係ハラス凡テ平均ノ税ヲ課スルヲ強ラ定メラレタルナリ何トナレハ貿易規律ヲ本條約ノ一部分ト為シタルヲ以テ乃チ其本條約ヲ改正セサル片ハ

貿易規律モ亦改正スル能ハサレハナリ且英人ノ百方條約^{改正}拒ムハ我ニ大害アレ氏彼ニハ大利アルヲ以テナリ若又此貿易規律ヲ完全無缺ノモノト認ムル片ハ必ラス斯迄我通商ノ進歩ニ大害ヲ來サ、ルヘキ筈ナルニ却テ一般施政上ノ改良ニ大害ヲ被ムラシムルモノハ何リヤ一千八百六十六年ノ訂約ニテ輸入品ノ税ヲ決定シタル片ニハ玻璃金中綿帆布等凡ソ百有餘種ニハ定額税ヲ課シ鞋雨當掛時鐘ノ如キ僅少ノ品物ニハ五分ノ從價税ヲ課スルヲ決定シタルヲ以テナリ蓋シ從價税ノ五分ハ尚ホ輕ニ過ッルカ如クナレハ必ラス増加スヘキナラニナレ氏此從價税ハ常ニ其物價ト共ニ高低シテ敢テ輕重ヲナササルカ故ニ別ニ論スヘキノ點ナク定額税ニ至テハ通商上甚タ大ナル成果ヲ生スルヲ以テ奈ソ論難セサルヲ得ニヤ

抑モ此定額税法ヲ定ムルニハ彼我承諾ノ上當時ノ物價ニ照シテ五分ノ從價税ト同シ割合ヲ計リ輸入品ノ數量ニ因テ課額ヲ定メ課税表ヲ作りテ之ヲ税法條約書ニ登記スルナリ是ヲ以テ定額税ハ其課法從價税ト異ナレト畢竟同等ノ割合ニ當ルノ理ナリ然ルニ其税法條約書ハ本條約ノ一部ニ屬シ且其本條約ヲ確定セシハ一千八百六十六年ニシテ當時決定シタル物價ハ該年ノ時價ニ從テ定メタルモノナリ然ルニ日月流ル、カ如ク早已ニ十年ノ星霜ヲ經シカハ諸物價ハ一般ニ當時ト面目ヲ異ニセリ然レト從價税ハ物價ト共ニ高低スルカ故ニ敢テ不均ヲ生セサレト定額税ニ至テハ一旦定メタル以上ハ物價何程ニ騰貴スルト雖モ依然トシテ變セサルヲ以テ為ニ大ナル弊害ヲ來シタリ例ハ十年前ニ五分ノ割合ヲ以テ定メタル定額税ハ今日

ニ至テ殆ト貳分ニ減少セリ乃チ英國ヨリ我國ニ輸入スル物品ニハ多ク此輕税ヲ課スルナレト歐洲各國ニ於テハ輸入品ニ課スルニ此ノ如キ輕キモノアルヲ聞カス然ルニ我國ニハ尚ホ事ニ托シテ無税ノ輸入ヲナスモノ多ク税法條約書ニ據ルルハ羅紗襪衣席筵其他無税ニテ輸入スルモノ甚タ多シ是レ蓋シ十年前ニハ日本人ホタ是等ノ物品ヲ使用セカリシカ故ニ市場ニ於テノ賣買アラサシヲ以テ無税トナセシナルヘシ且英國ノ官吏ハ是等ノ物品ハ皆テ日本ニ在留セル歐人ノ使用品ニシテ尋常ノ高價ト異ナルカ故ニ無税ニテ輸入ヲナサント主張セリ然ルニ當今ニ至リテハ我人民ノ費用スル所トナリケレハ最早在留歐人ノ使用品トノミ謂フヘカテサレハ普通ノ高價ト同視セサルヲ得ス今ヤ英國製造品ノ輸入スルモノ已ニ多キニ至ルト雖モ

或ハ無税ナルアリ或ハ税アルモ此少ニシテ益ナキモノアルカ故ニ何ヲ以テカ税法ヲ改正セサルヤノ疑問ハ自ラ起ラサルヲ得スト雖モ此疑問ニハ一言ヲ以テ答フルヲ得ヘシ何トナレハ税法條約ハ本條約ノ一部分ニシテ英公使ノ承諾スルニアラサレハ改正スルヲ能ハス然ルニ英公使ハ已レニ利益アルノ外ハ固ク之ヲ拒ムヲ以テ改正ノ期ハ竟ニアラサルニ似タレハナリ縦令ニ改正ノ期ナク斯ク國榮及ヒ國益ヲ損傷スルト雖モ國用已ニ足テ更ニ費途ノ増スヲアラサリヤハ何リ斯ル非常ノ困難ヲ生スルヲアラシヤ然ルニ奈セシ開港以來國事甚タ繁ク随テ官吏ヲ増置シ給料ヲ加與シ軍備ヲ改良スルヲ為シ歐洲ノ兵器ヲ購求シ教師ヲ聘スル等其外錢道ヲ開キ電信ヲ架シ燈臺ヲ立テ道路ヲ修ムル等故擧ニ違アラス皆之カ為ニ許多ノ錢幣

ヲ出シテ歐人ヲ傭フ是等ハ總テ開港ニ就テ万々止ヲ得サルニ出ラタルモノニテ吾々國費ノ増シタルモノナリ夫レ之ヲ償フノ術ナキニハアラサレハ前ニ説キタル如クニテ充分ニ輸入税ヲ課スルヲ能ハサルヲ以テ纔ニ一路ノ容易ナルモノニ依頼スルヨリ他ニ施スヘキ策アラサルナリ又吾輩ハ輸出品ニ税ヲ課スルヲ以テ屢々歐人ノ批難スル所トナレハ畢竟我情實ヲ知ラサルヲ以テラノ故ニ此説起リシモノニシテ我ニモ之ヲ避クルノ策ナキニハアラサレハ唯終ニ行ヒ難キノミ抑モ此税ヲ課スルニハ便チ非常ノ費額ヲ償ハシカ為ニシテ万々止ヲ得サルニ出ラタルモノナリ斯ル景況ニテハ益々輸出品ヲ減少シ愈々工作力ヲ挫折スルナルヘシ其レ邈テ此弊源ヲ尋ヌレハ即チ英人ニ與ヘタル許容ヨリ生シタルモノナリ然レハ英人ヲシテ吾

輩カ彼ニ與タル如キ許容ヲ我ニ與ヘシムルハ或ハ此
害ヲ除クヲ得ヘケレハ英人我産ノ茶烟草ヲ買フハ英
國政府ハ何程ノ税ヲ課スルヤ吾輩カ英國産ニ課スル如ク
貳分或ハ三分ノ輕税ヲ課シテ満足スルヤ否英政府ハ茶ニ
五割ヨリ七割ヲ課シ烟草ニハ元價ノ三倍ヨリ三倍半ヲ課
セリ其レ此ノ如クナレハ人誰カニ國通商ノ間ニ公平均一
ノアルヲ見ルヲ得ニヤ夫レ彼レカ務ヲ多ク其製造品ヲ輸
出シ務ヲ少ク日本産ヲ輸入スルハ抑メ大英政府ノ通商
政畧カ日本人民ニ對シテ交誼ノ厚情ヲ表マルモノトスル
カ吾輩ハ實ニ解スル能ハサルナリ條約改正ノ一ハ英公使
之ヲ承諾スルハ為ヌヲ得ヘシト雖モ今日迄ノ經驗ニテハ
決シテ我ニ益アルヲ許サ、ルハ吾輩信シテ疑ハサルナ
リ且兩國ノ交際上ニ何程變化ヲ生スルトモ前ニ記セル所

ノ三ヶ條ハ必ラス固守シテ放弛スルヲナカルヘシ是即チ
前ニ我内事ヲ冒サニテ欲シテ常ニ好機會ヲ闕フト言ヘ
ル所ナリ且條約ノ文タル巧ニ華ヲ舞ヤルカ故ニ文ト意ト
ハ大ニ異ナル所アレハ漸ク我政府ニ對シ不條理ノ苦情ヲ
訴ヘントス先ツ其一例ヲ舉テ言ハ、曩ニ我政府ハ蠶紙檢
査所ヲ設テ專ラ美品ヲ選テ輸出シ益、以テ内國産ヲ盛大
ニナサシメントシタルニ豈計ラニヤ英人漫リニ我官吏カ
妨害ヲナスナリト認メラ抗拒シタルカ故ニ此事終ニ果サ
サリキ這ハ何故ニ斯ク贊賞スヘキ盛舉ヲ妨クルヤ余ハ實
ニ解スル能ハサルナリ近日神奈川令、ヲ發シテ外國銀行
ヨリ發行スル紙幣ニハ能ク注意スヘキ旨ヲ管下ニ告ケタ
リ是レハ未タ右銀行ノ資本ヲ公告セサルカ故ニ其實情ヲ
知ル能ハス且我政府ノ管轄ヲ受ケ我法律ニ循フヘキモノ

ニアラサレハナリ又我カ人民ハ未タ開化ノ美ナルヲ知ラ
ス矇昧貧弱ナレハ斯ク注意セシムルハ縣令ノ縣令タル
所ニシテ能ク其任ニ堪ヘタルモノト謂フヘク且是迄屢ク
歐人ノ為メニ欺詐ノ生贖トナリテ回生ヲナスル能ハサル
程ノ困難ヲ訴ヘタルノ例モアレハナリ然ルニ日本在留ノ
英新聞記者ハ恰モ風人ノ如ク縣令ニ向テ憤懣ノ色ヲ顯ハ
シ全ク日本官吏之カ妨害ヲナスト認メ遂ニ條理外ノ事ト
シラ之ヲ訴ヘタリ然レモ是等ノ處置ヲナスハ條約文ヲ觀
ルニ全ク日本官吏ノ權内ニアルナリ且人民ノ利害ニ關係
スルコトアルトキハ為ニ限制ヲ立テ以テ之ヲ束縛スル等ノ
コトナキニアラス又吾輩人民ノ安全ヲ擔將經營スルハ我政府
ノ任ナリ故ニ政府ハ之カ為ニ要スル租稅ヲ徵スニ自由ノ
權アリ奈リ日本在留英人ノ此議ニ與カルヲ要センヤ將タ

外國政府ハ我ニ如何ナル事件生スルコトアリトモ固ヨリ其
情實ヲ知ラサルカ故決メ我内事ヲ冒スヘキ權ナシ我政
府ハ獨リ限制ヲ立ツヘキ專權ヲ有スルノミナラス人民ノ
幸福ト和親トノ為ニ最上ノ計策ヲ考ヘスニハアルヘカラ
ス我日本ノ如キ國ニ於テハ或ハ貿易上ニ限制ヲ立テ或ハ
通商事務ニ參與スル等ノ緊要ナル事アリ就中我人民ノ
如キ未タ經驗モアラス且孱弱ナル者ノ利害ニ關係スルコ
トアル片ハ專ラ救助ノ策ヲ施サスニハアルハカラス開港以
來日タル猶ホ淺キヲ以テ未タ通商ノ道ニ明ラカナラサル
カ故ニ歐人ハ唯此時ヲ然リトシテ專ラ欺詐ヲ事トシ以テ
我名譽ヲ穢サントス是ヲ以テ我政府ハ之ヲ拒キテ斯人
民ヲ保護セサルヲ得ス夫レ強弱ヲ凌クノ弊ハ何レノ國ト
雖モナキアタハス故ニ之ヲ防クノ策ナクニハスルヘカラ

ス英國ノ如キ盛大ノ國スラ矇昧孱弱ノ人民ノ利益ニ関スル一アリテ政府ノ保護ヲ要スル片ハ政府ハ更ニ為ニ法ヲ設ケテ之ニ與カルヲ榮譽ノ大ナルモノトスルニアラスヤ又「ブルームス」氏嘗テ依律例ニ就テ説ヲ立タル「アリ」其言ニ曰ク

法律ハ一般人民ノ好ム所ニ随テ定ム此レ之ヲ一般ノ國法ト謂フヘシ然レ氏經驗上ヨリ之ヲ論スル片ハ或ハ營業ニ不便ナル點生シ來ルヲ以テ一般ノ條理ノ外ニ出ツルモノヲ求メサルヲ得サルナリ今特別ノ種族ヲ取テ之ヲ明サニニ水夫ノ如キハ之ヲ法律上ヨリ觀ル片ハ常ニ幼屬ト同視スルカ故ニ更ニ特種ノ條例ヲ以テ約束ヲ為サシムルカ如キ類ナリ英國第四世「ウエリヤム」王ノ國憲第一及ニ第二卷ノ第三

十七編ツルユツクアクト條例ニ「マアール」氏カ附ヤル説アリ同氏ハ博學ノ密官ナリ即其説ニ曰ク

凡ソ此特種ノ條例ヲ成文律ニ掲クルノ目途ハ全ク獨立ヲ為ス「難ク自ラ已レテ保護スル」能ハサル所ノ等級ノ為ニスルナリ然レ氏斯ク限制ヲ立ツルハ全ク止ヲ得サルニ出ツ何トナレハ是等ノ等級ヲシテ束縛ノナキ推理ヲ與ヘ其欲スル所ニ任シテ作エ「約」ヲ為サシムレハ或ハ害ナキヲ保タサレハナリト

是ニ由テ之ヲ觀レハ均ク英人ニシテ英國ノ籍ニ連ナリ風俗慣習宗教等皆同一ニシテ互ニ同情同感ヲ抱クモノスラ尚ホ且ツ立法上ノ限制ヲ要スル「知ル」ヘキナリ況ヤ我日本人民ノ如キハ固ヨリ英人ノ如ク同一ノ感情ナク且徴

カニシテホタ 歐人トノ 交際ニモ 慣レス 加之 駐在英人ノ 偏
頗多キカ 故ニ 我政府ハ 必シテ 利害ヲ 計リ 或ハ 限制ヲ 立テ
或ハ 民事ニ 參與スル 事ヲ 緊要ニス 而シテ 此限制ヲ 立ルト 立
ラサルトハ 我政府ノ 裁断ニ 任スヘシ 且 輸入税ノ 如キモ 改
正ノ 必要ナルヲ 悟覺シタル 以上ハ 是亦 必ラス 更革セス
ニハ マルハ カラサルナリ 抑モ 吾輩ハ 英人ヨリ 被ムル 所ノ
藩属ノ 待遇并ニ 我國內ノ 事務ニ 與ルヲ 其他 英公使ノ 承
諾アラサレハ 税法條約ノ 改正ヲ ナスヲ 能ハサル 等ヲ 考フ
ルハ 月ソ 榮譽アル 國ニ 於テ 決メ 此ノ 如キ 凌辱ヲ 被ムラサ
ルヲ 明カナルヲ 知ル 故ニ 吾輩ハ 此許容ヲ 或ハ 怒リ 或ハ 厭
フ 然レモ 此許容ヲ 與ヘタル カ為ニ 英人ト 和親ヲ 結フヲ
得タル ナリ 謂フハ シ 不廉ノ 價ニ 此交際ヲ 買ヒタリト
儲テ 前段ニ 語リシ 如ク 此至大ノ 損害アル 許容ヲ 與ヘシ 頃

ハ幕府ニ 於テハ 人民ヲ シテ 曾テ 政事ニ 與カラシメス 故
ニ 人民ハ 屢々 不平ヲ 鳴シ 改事ヲ 變革ナサント 欲マリ 且 幕
府ノ 政畧ハ 一種 魚類ノ 方法ヲ 以テ 國事ヲ 管理スルカ 故ニ
歐洲各國トノ 交際ニハ 更ニ 何事ヲモ 為シ 得サリシ 程ナル
ニ 由テ 考フレハ 此許容ハ 我カ 為ニ 謂フヘカラサルノ 大害
アルヤ 必セリ 然ルニ 英人ハ 尚モ 目今ノ 形勢ヲ 保タンニ 欲
シテ 條約ノ 改正ヲ 拒絶マニ 鏡ニ 掛テ 觀ルカ 如シ 斯ル
事情ノ 生スルハ 畢竟 我ハ 最モ 至難ノ 位置ニ 居リ 彼レハ
最モ 利便ノ 位置ヲ 占ムレハ ナリ 偶々 我カ 為ニ 利ヲ 謀レ
英新聞ハ カヲ 極メテ 我政府ヲ 誹議シ 或ハ 我法律ヲ 罵
詈ス 已ニ 一千八百七十四年 九月九日「シヤツバンデーリー
ヘラルド」ニ 左ノ 文ヲ 見タリ

第一

日本人民ハ當時強クノ文明各國ト對峙セント欲スルノ大望ヲ企テリ

第二

外國人ヲシテ專ラ自國ノ法律ニ服從セシメントス然レハ其法律ハ有名無實ナルノミナラス裁判長官スラ尚ホ裁判上ニ熟練セサルカ如シ

第三

已レカ意ノ如ク税法ヲ改正スルノ專權ヲ掌握セントス

嗚呼新聞記者ハ何等ノ意見アリテ此ノ如キ妄言ヲ吐クヤ唯第一ニ記セル箇條ノミ少シク取ルヘキ所アル如クナレバ其餘ハ我政府ト法律トニ向テ架空ノ論ヲ吐ケル

ノミ何リ取ルニ足ランヤ其第一ニイヘル吾輩日本人民カ歐洲各國ト對峙セントスルノ大望アリトハ實ニ然リ我日本ハ固ヨリ獨立國ナリ獨立國ナルカ故ニ獨立ニ相當ノ推理ヲ有セントス誰カ之ヲ理ナシトセニヤ試ニ觀ヨ今茲ニ獨立國アリテ其人民普ク地球上ノ大國ト對峙セント欲シテ鞠躬盡力セニニ人ノ之ヲ理トヤニカ不理トヤニカ第一條以下ノ論ニ至テハ固ヨリ妄想ニ出テタルモノナレハ亦其誤論ヲ正サ、ルヲ得ス因テ聊カ我政府ノ當時ノ形勢并ニ變革以來改良成功セシ所ノモノヲ説カントス夫レ新政府ノ今日ノ政畧ハ復タ舊政府ノ比ニアラサルナレバ曩ニ古今未曾有ノ變革ヲ為セシニ尋テ諸ノ藩籍ヲ奉還シケレハ數年間諸藩ノ領シタル威權、忽然地ヲ拂テ消散セリ皆是レ貴重ナル愛國心ト我天皇陛下ヲ尊

敬スルノ志アルトシ以テ斯ク速ニ成功シタルモニアラ
スヤ凡ソ宇内各國ノ歴史ニ觀ルニ其更革轉變各幾何ナ
ルヲ知ラサレト我國ノ如ク刃ニ釁ラサスシテ諸侯ノ藩籍
ヲ奉還セシメ以テ數百年來治襲シタル封建ノ制ヲ解キ更
ニ郡縣ノ政ヲ布キ政權一途ニ出ツルニ至ラ人皆一ニ國家
ノ富強ヲ致サンコトヲ欲スルカ如キ盛舉アルハ未タ曾テ見
サルナリ方ニ今廟堂ニ立ツノ人ハ皆能ク事業ニ老ヒテ且
知憲アリサレハコソ嚮ニ勤王ノ義ヲ唱ヘ同志ノ士ヲ集
テ幕府ヲ顛覆シ以テ王室ヲ中興セシメント欲シ雨ニ
沐シ風ニ櫛リ焦思苦慮シテ能ク其艱難ニ耐ヘ遂ニ以テ此
一大變革ヲ為シタリ而シテ斯ル大功ヲ立テタル所以ヲ遡
テ考ルハ固ト變ニ處スルノ才ヲ抱キ幾回カ非常ノ事件
ニ逢ヒ漸ク實驗ヲ積ミ益々以テ其才ヲ長セシメ愈々以テ

其能ク養ヒ且困難ニ遭フトモ敢テ信義ノ志ヲ撓マサル
程ノ忍耐カアルヲ以テ今日ノ如キ赫々ノ盛威ヲ得ラレタ
ルナリ又當時朝廷ニ於テハ廣ク人才ヲ求メテ之ヲ舉用シ
大ニ言路ヲ開イテ好テ適言ヲ察スルヲ以テ殆ト野ニ遺賢
シ故ニ朝廷ニ在テ政務ニ與ル人ハ皆幕府ノ如ク厓ニ其
一族ヨリ舉クルノ比ニアラスシテ廣ク闔國ヨリ拔擢セラ
ル、所ノモノナリ而シテ其人ヲ舉クルヤ必ラス果毅信厚能
ク事ニ堪フヘキ人ヲ選メリ是ヲ以テ目今貴重ノ位置ニ立
テル人ハ全ク能ト功トノ致セシ所ニシテ寔ニ其任ニ適ヒ
タル人ノミト謂フヘシ
夫レ人ニシテ心ニ不滿ナク事ニ過失ナキコトハ決シテ能ハス
聖賢スラ猶ホ之ヘナキヲ保タサルナリ當時我々史ニ亦屢
此難事ニ遭ヘ天子ノ為ニ赤心ヲ盡シ人民ノ為ニ安全

大義

ヲ因ルニ至テハ曾テ愛國ノ名ニ一點ノ汚穢ヲ蒙ムラシメ
タルナク又數回ノ患難ニ際シ屢ニ失望スヘキ事ニ逢フ
ト雖モ亦ホク曾テ天子ヲ尊崇シ人民ヲ愛撫スルノ志ヲ怠
ラシメタルナク忍耐以テ庶政ヲ革メ精思以テ風化ヲ布
キケル程ニ終ニ能ク日本人民ヲシテ誠ニ政府ヲ信セシム
ル事ヲ得タリ是レ吾輩人民タルモノ今日幸福ヲ蒙ル
所以ニシテ而テ愛國者ニ謝セサルヲ得サル所以ナリ而
メ愛國者モ亦瞬間タリトモ怠ラス銳意以テ國歩ヲ進メ
タルヘカラス斯ル累況ナルヲ以テ我政府ハ業已ニ弊風陋
俗ヲ釐革シタルナク少カラサレモ尚益々改良スル所以アラ
ントス先第一文部省ノ事務ニ就テ之ヲ言ヘハ教育方法ヲ
普ク全國ニ布キ到ル處洋式ヲ以テ黌堂ヲ設ケサルナク
又童男童女ヲシテ皆小學ニ就カシメ以テ國ニ無學ノ徒

ナカラシメントシ又師範學校ノ設アツテ以テ之カ教官タ
ランモノヲ教フ且東京ニハ大學校アリテ遠ク英佛日米ヨ
リ諸學科ノ博士ヲ招延シテ青衿輩ヲ教フ此青衿輩ノ
中ニハ己ニ普通學ノ業成リテ米國ノ大學ニ入り其試驗ヲ
經テ及第シタル者アリ又工部省ノ功ヲ言ヘハ錢道ハ己
ニ貳箇所ニ開ケタリ乃々其一ハ横濱ヨリ東京ニ通シ其
一ハ兵庫ヨリ大阪ニ通ヤリ其他大阪ヨリ西京ニ通スヘキ
線路ハ落成近キニアリ又府縣傳驛其他苟モ人烟稠密ノ
地ニハ電信線ノ架アラサルナク街燈橋梁燈臺新道ノ如
キニ至テハ枚擧ニ遑アラサルナリ陸海軍ハ英佛ノ式ヲ以
テ兵ヲ練リ司法省ハ佛法ニ據テ審判法ヲ定メ以テ訟訴ヲ
裁斷シ且方ニ今我一大律書ヲ頒布シテヤントスルノ勢アリ
而モ變革以來ノ法令ヲ彙纂シタル一大部書ノ既ニ

世ニ公ニナリタルモノアリ又更ニ法律學校ヲ設ケ律學
生徒ヲ教育スルノ方法ヲ立テ佛國ヨリ博學ノ法律學士ヲ
招延シ以テ之ヲ教ヘシム右律學生徒ハ試驗ヲ經ルノ後審
廷ニ出ラ、實地ニ事務ヲ扱フコトヲ許スナリ儲テ目今審廷
ニ立ツ所ノ長官ハ變革以前ヨリシテ數回實際ヲ踏ミタル
カ故ニ裁判ニハ最モ老練シタリ是皆我政府ノ勉強ヨリ生
シタル所ノ成果ナリ英人此形勢ヲ熟視スルトキハ我政府
ヲ信スルニ足ルナルヘシ夫レ是等ノ功ノ成リタルハ畢竟
ニ皇陛下能ク其任ニ堪ヘタル所ノ宰相ヲ舉ケ以テ其言
ヲ容レテ疑ハサルヨリ生スル所ノ結果ナルヤ必セリ儲テ
右ニ陳スル所ヲ以テ我内事ノ概畧ヲ知ルニ足ルヘシ
又吾輩ハ大ナル利益ヲ歐洲各國ニ與ヘタルコトアリ開ハ
何ソトイフニ支那皇帝ト謁見ノ問題ヲ觀ヨ歐洲ニ名アル

英佛日魯米カ支那皇帝ノ謁見ヲ請ハシカ為メ百方
カラ盡シタルコト數年ナリシカモ支那人固ク執テ之ヲ許サ
ス夫ノ鴉片ノ乱ニハ言フニ忍ヒサル程ノ慘毒ヲ流シ遂ニ
英軍城下ノ盟ヲ為シ劫迫シテ此怖ルヘキ藥料ヲ買ハシメ
リケレハ憫ムヘシ支那人ハ身体衰弱シ精神消耗シ國
勢隨テ萎縮シタリ斯ル困難ニ逢ハシムル程ノ勢アル英
人スラ猶ホ謁見ヲ得サリシニ獨リ輒ク之ニ謁見シタルハ
我舊參議副島君ナリ而ノ其人ヲ選ラ能ク此事ヲ成サシ
メタルハ我天皇陛下ノ聰明叡知ノ致シタル所ナリ而メ副
島氏モ亦能ク其任ニ負カス固陋ナル支那國ト締約ヲ為シ
我天皇陛下ノ信義ヲシテ彼レニ通ヤシムコトヲ得タル
ハ賞スルニ堪ヘタリ是レ所謂四方ニ使シテ君命ヲ辱カシ
メサルモノカ又臺灣ノ事ヲ觀ヨ我日本國ヨリ問罪ノ師

ヲ殺セサル以前ハ該島蠻人ニ如何ナル暴舉アリトモ負擔
シテ能ク之ヲ處置スルモノアルヲ聞カス若シ我國斷シテ
此師ヲ殺セサレハ歐人ハ或ハ亦ク困難ヲ免ルル能ハサル
ナルヘシ又支那政府ハ平常狡猾ノ手ニ熟シタルヲ以テ假
令該島ニ何等ノ事件起ルトモ其答甚タ曖昧トシテ依據ス
ヘキ所アラズ然レハ吾輩ハ寧ろ大額ノ錢幣ヲ費ヤスモ能
ク彼ヲシテ瘡癒スル所アラシメント決斷シテ師ヲ興シ
遂ニ能ク其功ヲ奏シタリ故ニ將來該島ニ事アルノ日支
那政府ハ之ヲ負擔ヤサランコト欲スルトモ得ヘカラサ
ルナリ又朝鮮ト和親シタルコトヲ觀ヨ此舉ヤ實ニ歐人ヲシ
テ吾輩ヲ信ヤシムルニ足ランカ英佛其他歐洲各國及米
國等之ト相結交ヤントシタリシカトモ得ス中ニモ米佛ハ
軍艦ヲ發シテ朝鮮海岸ヲ砲撃シ多ク無辜ノ人民ヲ殺

傷シ其財産ヲ毀損シタルコト甚カラス斯ノ如ク慘擧ヲ極
メタルハ果シテ何等ノ功ヲ奏セシゾ將タ此舉ヲ以テ鎖港
攘夷ノ胸壁ヲ破ルコトヲ得タリヤ又其砲彈ハ多クノ人命
ヲ絶テトモ彼カ西洋ニ對シテ固説ヲ破ルコトヲ得タリヤ
恐クハ却ラ彼レノ怨恨ヲ増シ愈々鎖港ヲ堅クセシメタル
ナルヘシ然レハ今ヤ既ニ我日本人ノ盡力ニ依ラ夫ノ固
執ノ鎖港ヲ解キ遂ニ能ク交際ヲ尊ウシ親睦ヲ深クナサン
コトヲ約シタリ夫レ驕傲ナル朝鮮人歐洲ノ富強國ニスラ許
サ、ル所ノ和親ヲ獨リ我ニノミ許シタルモノハ誠ニ我特
命全權公使黒田君副使井上君ノ銳意勉勵シテ使臣タ
ルノ義務ヲ盡シタルノ功ナリ余ハ右ノ三大事件ト前ニ陳
ハタル内國ノ變革トヲ以テ火燭トナシテ夫ノ暴論家ノ胸
間ヲ照サハ冥々タル妄想忽々昭々トシ始テ其狹見ナリシ

ヲ知ルヤ必セリト信ス吳々モ我政府ハ非常ノ抵抗ト至大
ノ困難ニ逢フト雖モ曾テ事トセカレ程ノ忍耐ニ藉テ以テ
能ク此変革ヲ為シ得タルナリ然ルニ新聞記者ハ漫ニ我
政府ハ政務ニ暗ク恣ニ重税ヲ課シ以テ高業ノ進歩ヲ妨ケ
ントスル等其**他**百事紛乱ノ景況アリ杯ト暴言ヲ吐ケ凡誰
カ敢テ之ヲ信シテ是トスルモノアラニヤ又或ハ我法律ヲ
有名無實ナリト誹リ裁判長ヲ無能ノ人ト謗レ凡是レ亦
決シテ取ルニ足ラサルナリ何トナレハ我國法ハ專ラ三千
有**余**万ノ人民ノ為ニ幸福ヲ謀リ以テ之ヲ保護スルトニ怠
タラサレハナリ既ニ前ニモ陳スル如ク我裁判長ハ實地ニ老
練シタルカ故ニ能ク處シ難キヲ處ス是ヲ以テ其榮譽最モ
高シ且我日本ノ法律ハ不備ハ則々不備ナリ然レ凡完全
ニシテ毫モ缺典ナキ法律ハ歐米諸國ト雖モ恐ラクハアラ

サルヘシ夫ノ英ノ法律スラ亦タ嘗テ大成無缺ナリト謂ヘ
ルモノアルヲ聞カス是レ日ニ其不備ナル所ヲ顯ス一多ケ
レハナリ然レ凡英國ニ來ル外國人ハ其法律ノ不備ナルヲ
以テ隨ハサラン一ヲ欲スレ凡英政府ハ奈ク之ヲ許サンヤ
獨リ英法ノミ然リトスルニアラス他國ノ法モ亦此ノ如シ
何ヲ以テカ我日本ヲノミ異ニスルヲ得ニヤ故ニ我法律ハ
固ヨリ**缺典**ナキ能ハスト雖モ外國人ノ我ニ來ル者ハ必ス
之ニ遵ハスニハアルヘカラス
以上掲ケ論スル所ヲ三款ニ分ツトキハ第一款バ彼レニ許
容ヲ與ヘタル時ノ景況及幕府ノ人望ヲ失ナル形勢并ニ
歐洲各國ト條約ヲ取結ヒタル際幕吏ノ事ニ熟セサル
事**第二**款ハ此許容ノ為ニ吾輩人民カ謂フヘカラサル損
害ヲ蒙リ且吾輩ヲシテ英人ニ對シテ痛ク偏頗ノ心ヲ

抱カシムル情實等三致ハ日本在留英人ノ吾輩ノ請ヲ許
サスシテ依然當時ノ形勢ヲ襲ヒ尚ホ我政府ニ向テ冤罪
ヲ蒙ムラシメントスルノ勢アルヲ以テ更ニ我政府ノ當時
ノ形勢ヲ説キ併マテ変革以來國歩ノ進ミタル所并ニ
舊政府ト新政府トノ全ク類ヲ異ニヤル事實ヲ説キタ
ルモノナリ故ニ苟モ公平至當ノ心ヲ以テ之ヲ讀ムハ英
國ハ日本ニ對シテ交際上ニ義務ヲ盡サ、ル所多キト藩屬
地ノ待遇及、己ニ稅法條約ニ與ヘタル許容ハ我高業ヲ
哀微セシメ且裁判ノ條理ニ背キラ我名譽ヲ壞リタリト云
フトヲ知ルヲ得ヘシ夫レ其國ヲシテ盛大隆昌ナラシメ以
テ其君主ヲシテ不義強壓ノ名ナカラシメントスルハ豈英
國人民ノ義務ニハアラサルカ又英人ハ我日本ノ進歩ヲ妨
クニヨリハ之ヲ導テ開化ノ域ニ入ラシムルヲ榮譽ノ最

モ美ナルモノトナサ、ルカ吾輩日本人民熟ラ兩國交際
ノ景況ヲ視レハ英人ハ舊政府ノ交際ニ慣レサルヲ好機會
トシラ多ノ許容ヲ要請シテ之ヲ得斯ク迄我國ニ慘毒ヲ
流スト雖モ爾之ヲ意トナサス猶ホ此許容ヲ固握シテ弛
メサルカ如シ故ニ吾輩煩厭ヲ顧ミス縷々之ヲ陳訴スル
モ亦理ヲラスヤ竊ニ察スルニ英人一般ノ説モ必ス吾輩ト
同キモノアラシ吾輩ハ我政府ヲ以テ自ラ歐人ヲシテ信ヤ
シムルニ足レリト信スルカ故ニ今吾輩此條約ノ事ヲ論
究シ長ク此形勢ヲ持ツヘカラサルヤ否ヲ以テ廣ク英人
ニ問フヘキノ時トナス然レ氏退テ考フルニ此形勢ハ終ニ
保ツヘカラサルヲ知ル何トナレハ獨リ我人民ニ大害アル
ノミナラス施テ英國ノ名義ヲ壞レハナリ故ニ宜ク兩國ノ
利益ヲ計リ更ニ公平至當ノ條約ヲ結ビ互ニ損害ナリ益

兩國ノ幸福ヲ増サシムスニハアルヘカラス而シテ吾輩ハ
ニ望ム英人万國ノ交際上ニ欠クヘカラサル恭敬ノ心意ト
公平至當ノ感覺トヲ以テ速ニ此弊害ヲ除却セニテシ

